

(別紙)

大雪による農作物等の栽培管理について

令和6年(2024年)2月6日
農業技術課

1 状況確認

- (1) ほ場や施設に入れるように除雪を行うが、積もった雪で水路や畔などの位置が分りにくくなっているため、除雪の際は十分に注意する。
- (2) 被害の発生状況を確認できたら、復旧作業を計画的に進める。

2 園芸用ハウス・育苗ハウス等

- (1) 施設が変形または倒壊しかかっている場合は、事故の発生に十分注意しながら、施設内に支柱を立てて補強するとともに被覆資材を補修する。
パイプが歪んでいると、今後の降雪・強風等で被害が拡大するので、こまめな雪落としや十分な施設加温管理により被害防止を図る。
- (2) これまでに被害が見られていない場合でも、今後の降雪・強風等で被害が発生する恐れがあるので、支柱などを多く設置して施設の補強を図る。
- (3) 部分的に破損している場合には、内張りカーテンや仕切りなどを行うことにより、農作物の生育に支障が起きない最低温度を確保して、早急に復旧を図る。

3 施設野菜

- (1) 低温下における育苗管理
 - ア トンネル・苗床等をハウス内に設置して温度を確保するとともに、曇天日等でも、日中は保温資材(こも等)を取り除き、苗の徒長を防ぐ。
 - イ 育苗ハウスの周辺に排水溝を設置し、できるだけ積雪を除去・融雪して排水対策に努める。
- (2) ハウス倒壊等への対応
 - ア 育苗中の野菜は、2重カーテンやトンネルの設置、不織布や保温マットなどの保温資材で被覆して、品目に応じた最低温度を確保し、できるだけ速やかにハウス復旧を図る。
 - イ 修復が不可能な場合には、早急に保温できる施設に移す。栽培中のもので耐寒性の強い品目については、保温資材のべたがけ等を行う。
 - ウ 半促成等のアスパラガスで、ハウス復旧が不可能の場合は、露地栽培への変更を検討する。

4 露地野菜

- (1) 融雪の促進
積雪・残雪が多く、作付に支障をきたす場合は、融雪用資材の散布により融雪の促進を図る。融雪剤は、有害物質を含まず、色が濃く(黒～褐色、灰色)、散布時の舞い上がりが少なく、安価で多量に入手可能なものが適する。
- (2) たまねぎ、アスパラガス等
水田転換畑のたまねぎ、アスパラガス等では、融雪水が滞水しないよう排水溝を掘り、できるだけ排水を促す。

5 花き(クリスマスローズ)

- (1) 速やかに除雪を行い、株を保護するとともに、過湿を防ぐため周辺の除雪を行う。
- (2) ハウスの倒壊程度によるが、できるだけ倒壊前と同様の温度管理を行う。
- (3) ハウスの復旧が困難な場合は、トンネル被覆(農ポリ、保温マット等)を行い凍害を防止する。
なお、トンネル被覆が困難な場合は応急的にべたがけ、ワラ、モミガラ等を被覆して凍害を防止する。

6 果樹

(1) 融雪の促進

本年も生育の前進が見込まれるためせん定作業等遅れないようにする。積雪が多い場合は、融雪用資材の散布や、機械除雪又は雪割り・畝立て等により融雪の促進を図る。融雪剤は、有害物質を含まず、色が濃く（黒～褐色、灰色）、で散布時の舞い上がりが少なく、安価で多量に入手可能なものが適する。黒土、焼モミガラ、木灰等のほか、近年ではバイオ炭や液体を活用する例もある。

7 菌茸施設

- (1) 屋根の積雪量と栽培施設の構造を勘案し、雪下ろし作業を行う。作業にあたっては安全に十分配慮する。
- (2) 降雪により燃油の屋外配管に変形や破損が生じないように、適正に除雪する。
- (3) 雪下ろしした雪が冷凍機や換気口等を塞がないよう、直ちに除雪する。